

行政視察報告書

視察報告者 牧 貴宏

【視察期間】 令和5年6月21日～令和5年6月22日

今回の視察は4つの施設を訪れ、アーバンスポーツについて調査研究を行った。
とある統計では30～40万人だったスケートボード人口が、東京オリンピックの影響で100万人に届く勢いとの事。
大分市でアーバンスポーツを楽しみたい、さらには競技として取り組みたい市民の為に必要な施設だと考える。

【視察日】 令和5年6月21日

【視察地】 大阪府大東市 深北緑地

【調査事項】 アーバンスポーツ施設について

【調査概要及び所感】

普段はスポーツが楽しめる緑地公園で、大雨等の非常時には一時的に増水した水を溜め、洪水を防ぐ遊水地でもある。

レクリエーションの場でもあり、地域の安全確保にも一役買っている。

運営は指定管理にて、スケートボード、インラインスケート、BMX等滑走可能となっている。

施設の中から主にBMX広場、ストリートバスケット広場、波の広場に注目した。

・BMX広場（無料）

BMXのカテゴリーの中でもダートジャンプと呼ばれるもので、土で作られたコブのような連続ジャンプを、いかにスタイリッシュに飛ぶかを競うもの。

いつの間にか愛好者団体が作り上げたものを、後に指定管理者が許可したという経緯がある。それだけに利用者のマナーはとても良く、ヘルメット着用率も高く、ゴミ拾いボランティア等にも積極的に参加している。

ライダーだけでなく周囲にギャラリーも多く、とても活気あふれる空間であった。

自分たちの場所は自分たちで守る、そういった意識の高さを見習う必要がある。

ただ、これと同じものを大分市に作るのは時期尚早、競技人口が増えたときに要検討かと思われる。

・ストリートバスケット広場（無料）

3×3のコートが3面あり、競技をしているというよりは皆でワイワイと楽しんでいる様子。

子供の頃に夕方のミュージックチャイムが鳴るまで、夢中になって遊んだのを思い出す、昔懐かしの楽しい空気感。

競技として取り組んでいるというよりは、エンジョイな雰囲気を感じた。

・波の広場（無料）

地形を生かしたアップダウンがあるが、基本的には広い平面といった広場である。

我々が訪れた時には、スケートボード、BMX、街乗り用自転車の練習等を楽しむ児童生徒で賑わっていた。

広場内にセクション（ジャンプ台やハーフパイプ等の総称）が複数あり、初心者～中級者向けといったように見受けられた。

アーバンスポーツに使用する道具に慣れる為、このような広場があるのは有意義であると考え

る。我々が公園を訪れたのは平日の夕方、利用者は児童生徒が主で、昔ながらの公園の楽しみ方の中に、アーバンスポーツがあるようなイメージ。

全体的にガチガチのルールは無いものの、それが個人の意識の高さ、深北緑地ならではの良さに繋がっているようだ。

このような和気藹々とした初心者向けの場所は必須であると同時に、競技として上を目指すためには物足りなさを感じる。

大分市に施設を設置をしようとする際、「楽しむ為の公園施設」もしくは「競技として技術向上の為のスポーツ施設」なのか、十分な調査研究が必要だろう。

【視 察 日】 令和5年6月21日

【視 察 地】 大阪府寝屋川市 寝屋川公園

【調査事項】 アーバンスポーツ施設について

【調査概要及び所感】

野球場、テニスコート、陸上競技場、ソフトボール広場等が揃う総合運動公園。

3×3のコートと通常のバスケットコートがあり、運営は指定管理にて行われている。（無料）

併設することにより、どちらもプレーしたい場合、じっくりシュート練習したい場合等、使用方法に幅が出ると考えられる。

公園内には様々な遊具やBBQが出来る場所があり、ファミリーで楽しめるのが印象的であった。

総合運動公園の中にアーバンスポーツ施設を作るのも、1つの案として考えるのも良いだろう。

【視 察 日】 令和5年6月22日

【視 察 地】 大阪府堺市 原池公園スケートボードパーク

【調査事項】 アーバンスポーツ施設について

【調査概要及び所感】

西日本最大級のコンクリートパーク（中級者、上級者用）と、設置型のセクションがフラットな路面に置かれたストリートエリア（初級者、中級者用）からなる本格的な施設。（有料）スケートボード、インラインスケート滑走可能で、運営は指定管理。

コンクリートパークはプールのように地面を掘ったボウルと呼ばれるセクションが多数あり、ここまで大きなものは珍しいと聞く。

「名物になるものを作ろう」と、13年ほど前に当時の金額で約1億5千万円で建設された。かなり大きなハーフパイプもあり、四十住さくら選手、西矢椏選手もここで腕を磨いたそう

だ。素晴らしい施設であるものの、コストがかかり過ぎる事、限られた中級者・上級者しか楽しめない事等、これを大分市に設置するのは中々難しいと思われる。

一方のストリートエリアはフラットな路面も広く取られたレイアウトで、初心者も楽しめるよう作られており、セクションも様々で中級者も楽しめる内容になっている。

大分市ではまずこのようなエリアを作り、基本を学んで安全に滑ることが出来る入り口を作りたいものだ。

敷地内にはスケボーのパーツやプロテクターを販売しているショップがあり、プロによるスクールも行われ大きな大会は年2回、市長杯とインフルエンサーによる大会が開催されている。施設を作るだけでなく、その後の楽しみ方をしっかりと支えることが、楽しみ方を深め競技レベル向上につながっているのを感じた。

滑る場所だけではなくこういった環境整備も必要だろうし、負傷の際に発見が遅れずに済む。ちなみにBMXは滑走不可で、理由を聞いてみると「スケートボード用にセクションを幅狭に作っているから」「同じ場所で同時に滑るのが危険だから」と言った内容であった。

大分市に施設を設置する際には、セクションの作りに工夫し、滑る時間を競技によって分かるなどして、スケボー以外のスポーツプレイヤーにも楽しんで頂きたいものだ。

【視 察 日】 令和5年6月22日

【視 察 地】 大阪府松原市 スポーツパークまつばら

【調査事項】 アーバンスポーツ施設について

【調査概要及び所感】

フットサルコート（有料）3面、スケートパーク（有料）2ヶ所からなるアーバンスポーツ施設。

今回は特にスケートパークに注目した。

スケートボード、インラインスケート滑走可能で、指定管理で運営されている。

初心者から上級者まで楽しめる1つ目のパークは、フラットな路面に大きな設置型のセクションが多数あり、ハーフパイプも2つ設置されており幅も広い。

施設としてはBMXも使用出来る規模なのに滑走不可となっており、何故か質問したところ

「施設としてはBMXも問題無く使用できます。しかし設置する際にBMXで乗りたいという意見がありませんでした。」との事。

これからそう言った意見が出てきた場合、どうなっていくのか興味深い。

この施設でもスケートスクールが開催されており、施設を作るだけでなくその後のサポートが必須なのを感じる。

2つ目のパークは超上級者用のモンスターセクションで、市内だけで無く全国から猛者が滑りにやって来るそうだ。

使用頻度は高く無いが「オリンピックで勝つための大きなセクションを作る」「施設の目玉になるものを作る」という柔軟な試みが実現したのは凄い。

今の大分市に必要なのは一つ目のパークのような施設だと考えるが、競技として取り組む施設の1例として参考にしたい。

フットサルコートも併設していることもあり、スケボー関係の物販はもちろん、ロッカーやシャワー室も用意されている点も注目だ。

用地費は道路区域を有効活用し不要、工事費は市が負担、運営費は指定管理者負担となっており、自主事業で運営費をまかなう等、収支計画についても参考になる点も多い。

令和5年4月には、近い場所に屋内・屋外パークが関連施設としてオープン、全天候型で天候関係なく練習に打ち込める環境が整った。

屋内施設となるとコスト面でハードルが上がるが、大分市でもその可能性を模索する必要があると考える。

今までに無い盛り上がりを見せるアーバンスポーツ。

大分市内で活動している関係者にリサーチ、しっかりとニーズに応えられる施設を設置し、継続的に運営できるシステムを構築する事が必要。

先にも触れたが「楽しむ為の公園施設」か「競技として技術向上の為のスポーツ施設」かをし

っかりと位置づけし、規模と目的によっては有料の施設を作り、使用料や駐車場料等を収入として財源としたい。

アーバンスポーツ施設設置に向け、今後とも調査研究を続けて行きたい。